

## ロケットペンダントを有効活用

何万分の1かの可能性のところ、自分の命を救えることがあります。

例えば、過去に薬を使用してショック症状を起こすくらいの強烈なアレルギーを経験した持ち主。自分に合わないその薬の名前を書いたものをロケットペンダントに入れておくと、意識不明になったとき、搬送された病院で自分に合わない薬を投与されることが防げます。

また、ロケットペンダントに冠状動脈を拡張するニトログリセリンの錠剤を入れておき、周囲の人に、もし心臓発作で倒れたら舌下に含ませてくれるよう頼んでおけば、命を救えるかもしれません。

## たんぱく質のとりかたも工夫を

「口唇ヘルペスの軟膏を買いたいんだけど」と話し出した40歳代の女性。「副作用が出ないか心配で」といいます。

過去にペニシリンの内服薬を服用して足の先から腰あたりまで、ひどい薬疹が出たことがあり、皮膚科に行って薬疹を抑える内服薬を、本を見ながら決めてもらいました。「これで効かなかったら別の薬を考える」といわれたけれども、うまい具合にこの最初の薬で症状は軽減されたそうです。

こうした人は何も知らされないでペニシリンを処方されたら大変です。

例えば、ピロリ菌を除去するのにペニシリン系薬剤と他の抗生物質を組み合わせさせて出される可能性もあります。

この女性、「他にもあるんです」と続



## 自分の命を救うためにできることを 薬のアレルギーは薬剤師に相談

薬によるひどいアレルギーを経験している女性。現在も薬の服用やワクチンの接種など、困りごとがたくさんあるようです。



けます。

花粉症の内服薬でめまいがして、からだ中がこわばったこともあるとか。そういうことを正直にドラッグストアで話したら薬を売ってもらえず、名札を見たところ登録販売者だったという経験が。

さらに、インフルエンザのワクチンを打ったら、2週間おきにヘルペスが出て、そのことを医師に伝えると「卵アレルギーはないですか」と聞かれたそう。ワクチン製造の過程で卵を使うからでしょう。ちなみに、新型コロナウイルス感染症のワクチンでは何も出なかったといいます。「だから副作用が怖くて心配で」と。そんなときは遠慮しないで薬剤師に相談してください。

自分では小さいころからアレルギーなどは気にしなかったとか。今も卵は毎日食べていて、2個食べる日もあるそうです。「だってたんぱく質を手っ取り早くとれるから」というのがその理由。そういう食生活がアレルギーを悪くしているのかもしれません。

他の食材でたんぱく質は補えるのだから、豆腐とか別のものをとる方法を考えましょう。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「変化の多い時期、心も健やかに保ちましょう」

